

●トラック1「プロローグ」

●背景…山中（日中）

（主人公、山中を歩いている）

◇SE…土を踏む足音

（数秒ほど歩き、古民家を発見すると足を止める）
（数秒足を止めたのちに再び歩き始める）

◇SE…土を踏む足音

（玄関前で足音停止）

◇SE…ドアをノック

（ドアの奥から近づいてくる足音）

◇SE…ススツというような足音（ダナ）

◇SE…引き戸を開ける音

◆正面

ダナ「あら？ふふふ。わかりますよ？

道に迷われたのですね？お疲れでしょう。どうぞ、部屋の中に上がってください。」

（主人公「い、いいんですか？」）

ダナ「はい、もちろんです。ここは疲れた方々を癒すための施設です。
なので遠慮なく上がってください。」

◇SE…三和土を踏むような足音数歩

◇SE…引き戸を閉める音

●背景…玄関（日中）

ダナ「靴を脱いでください。そういう作法を取り入れた屋敷なので。」

◇SE…靴を脱ぐ

ダナ「こちらへ。」

◇SE…ススツというような足音（ダナ）

◇SE…足音（主人公）

●背景…和室（日中）

■演技…背中を向けた状態

ダナ「どうでしょう？このお部屋。」

（足音停止）

ダナ「自然な空気を感じられるよう、

畳という異国の文化を取り入れた特注のお部屋です……♪」

（主人公「ここはいい……」）

ダナ「こちらですか？ここは癒し屋という母屋です。

私——ハーフエルフのダナと申します。

ここはエルフが営む癒しを提供する場所なんです。

普段はお金を頂戴して、ここで癒しを売る商売をしています。」

（主人公「こんなところ？」）

ダナ「ふふ。こんなところ……たしかにそうですね。

ですが、ここは魔力同士の反発を受けることがなく、

新鮮で気持ちいい魔力を放出できるんです。

癒しを差し上げるのにぴったりでしょう？」

（主人公「どうやって癒すの？」）

ダナ「興味がおありのようで……♪」

◇SE…足音数歩（ダナ）

◆右極近

ダナ「こうして……耳元から気持ちよさを提供するんです……♡」

■演技…軽い吐息

はぁ……。

ダナ「どうですか？人生において、耳元で囁かれるなんて早々ありません。

でも、我々が思ってるよりも耳って気持ちよく、

性感帯なんですよ……♪」

ダナ「ハーフエルフとして長生きしてきたからこそ、

あらゆる気持ちよさを研究してこれました。」

◆左極近

ダナ「その良さを……今日は特別に、サービスしちゃいましょうか……♡」

◇SE…右耳をそつと撫でる

ダナ「どうしますか？どこかへ急ぎの用事がありますか？

道に迷ったとお見受けしますが……、

よろしかったら、あなたの人生の短い時間だけでも、

私の提供する癒しに、費やしていただけますか……？」

（主人公「お、お願いします」）

ダナ「はい……♪

それでは、癒させていただきますね……♡

身も心も、疲れを忘れていってくださいね♡」

●トラック2「水の音色とひざまくら」

●背景…和室（日中）

（トラック1の続き）

◆左極近

ダナ「それでは……、」

◇SE…座る音

◆正面下

ダナ「おいで？私の膝に。」

（主人公、戸惑う）

ダナ「ふふふ。恥ずかしい？

誰も見てないよ。

ここにはふたりだけ。

私とあなた以外……誰もいないの……♡」

（主人公、ひざまくらへ）

◇SE…座る

◇SE…膝に頭を乗せる

◆正面近い

ダナ「ようこそ♡

エルフの癒しは……物理的な癒やしだけじゃないんですよ♡

思う存分……スッキリしてくださいね。」

（主人公「物理的？」）

ダナ「はい。たとえば、こんなこともできるんです。」

◇SE…指を鳴らす

(指を鳴らすと川のせせらぎの音が聞こえる)

◇SE…川のせせらぎ(指定箇所まで)

(3〜5秒ほどSEを聞き入る)

ダナ「聞こえてきませんか？水の流れる……心安らぐ音が。」

(主人公「どこから音が……？」)

ダナ「外に川は流れてません。いま、魔法をかけたんです。この部屋に。音だけが聞こえて……物質は存在しない。ステキな癒しですね♥」

◇SE…頭を撫でる音

ダナ「この音を聞きながら……幸せになってくださいね。お疲れでしょう？目を瞑って、耳だけに集中するんです。」

(数秒、SEを聞き入る)

ダナ「……では、吐息を吐いてみましょうか？心から悪いものを吐き出すのをイメージして……深呼吸です。いきますよ？」

ダナ「新鮮な空気を吸って……？
……邪気を吐いて……。」

ダナ「吸って……。
……吐いて。」

ダナ「吸って……。
……吐いて。」

ダナ「小さい頃、若い頃、深呼吸をしろと言われると億劫でしたよね。
でも、疲れた時に悪いものを吐き出すイメージで吐いてみれば……、
心の中の膿が、外に出ていく気分になりますね……♪」

(頭を撫でる音停止)

ダナ「では、気分がよくなったと信じて、
お耳を綺麗にしましょうか……♪
お耳、私へ向けてください。」

◇SE…寝返り

◆右近い

ダナ「ありがとうございます……♪」

(ダナ、耳かき棒を手取る)

◇SE…耳かき棒を手にする

ダナ「では、このエルフの里の花で作られた癒しの棒で、
お耳もスッキリしましょう……♪
♥」

◇SE…耳かき

ダナ「……ん、ん………ん……」。

いつも、お耳は綺麗にしますか……？」

ダナ「ん、う……ん………ん……」。

ふう、ん………ん………。

もし、お耳を掃除するのが面倒でしたら……、
私のところに来てくだされば……♥」

(耳かきのみ5秒)

ダナ「ん……………ん……………」

(耳かき停止)

◆右極近

■演技…息吹き

ダナ「ふう〜……………」

◆右近い

ダナ「ふふ……………♪」

◇SE…耳かき

(耳かきのみ5秒)

ダナ「水の音を聞きながら……………どうですか？

目を閉じながら聞くと……………」

ステキな情景が浮かびませんか……………？」

(耳かきのみ5秒)

ダナ「んう……………ん。ふふ。

川のせせらぎ以外でも……………楽しめますよ？」

ダナ「ん……………ん……………ふう……………ん。

やってみます？ほかの音。」

(耳かき停止)

ダナ「では。」

◇SE…指を鳴らす

(川のせせらぎ停止)

◇SE…静かな雨音

ダナ「さ、反対のお耳へ……♪」

◇SE…寝返り

◆左近い

ダナ「ありがとうございます……♪」

■演技…吐息

ダナ「はぁぁぁぁ……♥」

ダナ「感謝を込めて、お耳を気持ちよくしますね。」

◇SE…耳かき

(耳かきのみ5秒)

ダナ「どうですか……？」

こっちのお耳も……お疲れみたいですよ？

雨音に耳を傾けながら……癒されてくださいね……♥」

(耳かきのみ7秒)

ダナ「そういえば……今日はどちらへ向かう予定だったんですか？」

(耳かきのみ5秒)

ダナ「なるほどお。ふふふ。

私としては……迷子になっていただけたのは、

むしろ光栄ですね……♪」

ダナ「んう……んく……。

ン………。」

(耳かきのみ7秒)

ダナ「ふふ。

気持ちよさそう……♪」

(耳かきのみ5秒)

ダナ「この次……なにがあると思いますか？

癒し屋は……耳かきだけじゃありませんよ？」

(耳かきのみ5秒)

ダナ「ここ、女性も男性も関係なくご利用いただけるんですが……、」

(耳かき停止)

◆左極近

ダナ「男性には、専用の癒しを提供する流れになってるんです♥」

■演技…息を吹く

ダナ「ふうー……。」

ダナ「いかがでしたか？

それじゃあもう一度、私の方を向いてくださいね？」

◇SE…寝返り

◆正面近い

ダナ「ふふふ。

どうでしたか？」

(雨音がゆっくと静かになる)

◇SE…両耳を指で撫でる

ダナ 「あなたに必要なのは……、
耳かきだけではないみたいですネ。」

ダナ 「なので……この次の癒しで、
心の中から悪い空気をしっかりと吐き出させてみせます♪」

(耳撫で停止)

◆右極近

ダナ 「では、ここから先はオトナの世界♥
はじめましょっか……♥」

●トラック3 「まずはお手々で幸せに」

●背景…和室（日中）

（トラック2の続き）

（ひざまくらした状態）

◆右極近

ダナ「それでは……、」

◆正面近い

ダナ「いまから私達は恋人です♪

ですから、なにをしようといかがわしいことではないんです。

恋人を癒すのは、当然の行いでしょ？」

◆正面極近

ダナ「恋人ですから……、」

（ダナ、キスをする）

ダナ「ちゅぷ、ん、チュ……んん、ちゅ。

ちゅ……ふう、ん、ちゅ、んちゅ。」

ダナ「こうして、キスをするのみにひとつ問題がないことなんです♪」

ダナ「ちゅ、ん、チュ……んん、ちゅく、ちゅ……。

んん、ちゅ……んぷ、ちゅ……ちゅ……。

ふう、ん、ちゅ……ちゅ……ん……。」

◆正面近い

ダナ「まずは……一度、上体を起こしましょうか？」

◇SE…体を起こす

◆後方

ダナ「はい。

そのまま居てくださいね？」

(ダナ、背後から抱きつく)

◇SE…身じろぎ

◆左極近

■演技…指定箇所以外、顔は横向き

ダナ「私は後ろから……おちんちん、刺激しますね♥」

(主人公「そ、そんなことするの?」)

ダナ「ふふ。意外ですか？」

ココをシコシコするのも……スツキリしますよ?」

■演技…主人公を見る

ダナ「ズボン、少しだけおろしてください。

おちんちん、出して?」

◇SE…ズボンを少しおろす

(ズボンはお尻が出る程度脱ぐ)

ダナ「ありがとうございます♪…あら?

おちんちん……もう元気じゃないですか……♪

スツキリしなくちやいけませんね♥

ぜひ、私に任せてください♥」

ダナ「こうして——、」

◇SE…手コキ・低速

ダナ「おちんちん……気持ちよくしますので♥
んう……ん……」

手でシコシコするだけが……スツキリじゃないんです……♪」

(耳舐め開始)

■演技…ここから主人公の方を向く

ダナ「れろれろれろ……んんん、ちゅ、ちゅ。

耳かきでスツキリしたお耳を……、

ちゅむ、ちゅ……今度は、ペロでスツキリさせます……♥♥」

ダナ「ちゅ、んん、ちゅ、ちゅく、ちゅ……ちゅ。

んん、ちゅ、ちゅむ、ちゅ、んんん、ちゅく。」

ダナ「ふう……んん、ちゅ。

ちゅ……ん、ちゅ……んん、ちゅく、ちゅ。」

ダナ「どっちが気持ちいいですか？ふふふ。

ちゃんと……おちんちんも幸せになってほしいです……♥♥」

ダナ「れろっ、んん、ちゅ、ちゅっ……ちゅ。

んむう、ちゅ、ちゅ……ふううう、んん、ちゅ。」

■演技…吐息

ダナ「はああああ……♥」

ダナ「ふふふ。

立派なおちんちんですね。

ちゅむ、ちゅ、ちゅく、ちゅりゅ、チュツ。

んんんう、ん。

ダナ「私、好きですよ？

あなたのおちんちん……♥」

ダナ「れろれろれろれろ。」

んんむむむうう、ちゅ、ちゅうううう、ちゅ。
んんむう、ちゅ、ちゅふ、ちゅ。」

ダナ「そんなに興奮しちゃって大丈夫……？」

れろれろれろ、まだ……”次”があるんだよう？」

ダナ「ふふふ。

次……なんだろう？」

ダナ「んむうう、ちゅ、ちゅくう、ちゅ。

想像しててください……♥」

ダナ「ちゅぷう、ちゅ、んん、ちゅ、ちゅく、ちゅ。

はあ……んん、ちゅ、ちゅる、ちゅ。

んん、チュ……チュツ。」

ダナ「ん……ちゅっ、はあ、ん、んうう、ちゅ。

れろれろれろッ、んぷ、ちゅ……ちゅ、ちゅうう。ふふっ。
んうう、ちゅ、ちゅう。」

ダナ「おちんちんの速度、少しあげてみたいな……♥

このおちんちんが……シコシコ♥ シコシコ♥

皮がめくれちゃうところ……見てたいんです……♥」

ダナ「いいですか？

んむ、ちゅ、ちゅくううう、ちゅ。ふふ、ありがとうございます♥では」

◇SE…手コキ・中速

ダナ「お言葉に甘えて……♥」

ダナ「はあ……んん、ちゅ、ちゅくうう、ちゅ。

ふふ、震えちゃってる……♥

思ったより早かったですね♥ 私のシコシコ♥」

ダナ「れろれろれろつ、んん、ちゆく、ちゆつ、ちゅう。
はあ……んん、ちゆ、ちゅうう。気持ちいい？」

ダナ「ちゆむう、ちゆ、んん、ぷちゆむ、ちゆッ。
はあ……あんん、ん、チュッ、チュッ。反対も……、」

◆右極近

ダナ「舐めたいな……♡」

(耳舐め開始)

ダナ「れろれろれろれろ。こつちも、ベロで綺麗にしちゃう……♡」

ダナ「んぷ。ふうううう、ちゅうう、ちゆく、ちゆ。
んん、ちゆッ、ちゆ、ちゆ……。はあっ、はあっ……♡」

ダナ「れろれろれろッ、んん、ちゆくッ。
んん、ちゆ、ちゅうう、おちんちん、ヌルヌルおつゆが出てきて……、
シコシコしづらくなつてきちゃいましたね……♡」

ダナ「んんむうう、ちゆ、ちゆくう。
人間の倍以上生きるエルフのお手々は……包容力、強いですよね……♡」

ダナ「ちゅううう、ちゆ、んんうう、ちゆ。
ちゆッ、チュッ、んんむむ、ちゆ、ちゆ。
あなたを感じさせ……幸せにすることだけを考えて、
このお手々から、愛を注いで……♡」

ダナ「んむう、ちゆ、ちゆくううう、ちゆ、ちゆむうう。
はあ……あむ、んん、ちゆ、ちゅううう、ちゆる、ちゆ。
んんうう、ちゆ、ちゆ。」

ダナ「れろれろっ、んぷ、ちゅ、ちゅくうう、ちゅ。

はあ……はあ……んん、ちゅ、チュッ。」

ダナ「ん、んむ、ちゅ、ちゅ……っ。

はあ……あぷ、ん、ちゅ……。」

ダナ「そう言いつつ……私の方も、ムズムズしてます……♡

長生きしても……おちんちんには逆らえません……♡」

ダナ「特に、あなたのおちんちは色っぽいので……、

思わず、誘惑されちゃいます……♡」

ダナ「私の大事なところが……ズギズキ♡ 欲しがっちゃうなあ……♡ふふふ♡」

ダナ「んむ、ちゅ、ちゅる、ちゅ……。れろ、れろっ、ん、ちゅ、ちゅううう。

んむ、ちゅ……ちゅる、ちゅ。

れろれろっ、ぷちゅむう、ちゅ、ちゅ。はあ……はあ……んん、ズズッ、ちゅ。」

ダナ「大丈夫ですか……？ 落ち着きがないみたいですが……。」

(主人公「イキそう……ッ」)

ダナ「まあ？

それでしたら……このままお手々でびゅっびゅします？

いいですよ……♡このまま出しても♡いいえ……出してほしいです♡」

◇SE…手コキ・高速

ダナ「んうううっ。

んっ……はあ……はあ……っ。

射精してください♡

ダナ「ん、ん……ふうん、んっ。ん……ん……ん……。

れろ、れろッ、ぷちゅむう、ちゅ。

ん、ずずッ、ちゅ……んうううッ。」

ダナ「はあっ、はあっ。いま、イッてください♥
おちんちん……おつゆ出してっ♥」

(手コキで射精)

◇SE…射精

ダナ「あ……っ♥」

(手コキをゆつくり止める)

■演技…ペニスの方を見る

ダナ「はあ……はあ……♥

すごい……っ、たくさん……♥」

(手コキ停止)

ダナ「こんなに溜め込んでたら……、

さぞ疲れが溜まって辛かったでしょうね……♥」

ダナ「んう……ドキドキしちゃう……♥んう、ん……っ。

ぴゅ……♥　ぴゅ……♥はあ……はあ……。はあ……♥」

■演技…ペニスの方を見るここまで

ダナ「出し切ってくれましたね。ありがとうございます……♥

たくさん出していただき、ホッしました……♥

おちんちん。私のお手々に懷いてくださって、ありがとうございますね♥」

ダナ「それでは次……、始めましょっか？

なにををすると思いますか？

想像して……おちんちん、硬くしてください♥」

●トラック4「次はおくちで癒やしますね」

●背景…和室（日中）

（トラック3の続き）

（背後から抱きついての手コキ&耳舐めの後）

◆右極近

ダナ「このヌレヌレのおちんちん。

もちろん、綺麗にしくちやダメですよ？なので……、

ズボンを脱いで、あちらのお布団の上に寝転がってください。

続き、しましょ？」

◇SE…立ち上がる

◆後方下 ↓ 後方近い

◇SE…立ち上がる（ダナ）

ダナ「ズボン、脱いだらそのまま平気ですよ？」

（主人公、ズボンを脱ぐ（ズボンはお尻の下までおりている）

◇SE…ズボンを脱ぐ音

◇SE…ズボンを脱ぐ際の足をつく音×2

ダナ「では、お布団へ。」

◇SE…足音（畳）

◇SE…布団の上の足音数歩

（主人公、布団の上で寝転がる）

◇SE…座る音

◇SE…寝転がって枕に頭を乗せる音

(ダナ、主人公の足下へ移動)

◇SE…足音(畳)

◇SE…布団の上の足音数歩

◆正面 ↓ 正面下

◇SE…しゃがむ音

ダナ「では……。」

◆正面下

ダナ「舐めていきますね♥」

(舐めフェラ開始)

ダナ「れろ、んぷ、ちゅ……。」

ふふふ……あなたのおつゆ、濃いですね。」

ダナ「れろれろ……んん、ちゅ、れろッ、れろ。んぷ、ん、ちゅ……れろ、れろ……。」
「見ていいですよ？」

ダナ「れろれろっ、んん、ちゅ、私が、おちんちん舐めてるところ。
れろ、れろっ、んん、ちゅ、見てください……♥」

客観的に見ても……おちんちんと女性の対照的な姿……、
エッチですよね……♥」

ダナ「れろ、んぷ、んん、ちゅ、ちゅ。」

れろッ、れろ、んう、ちゅ、ちゅ、ちゅく、ちゅ。

れろ、れろ、んぷう、ちゅ、ちゅうう。

れろ……れろっ、んん、ちゅ、ちゅ……。」

ダナ「かさのあいだの汚れも、見逃しません。」

れろれろれろ……んん、ちゅ、れろ、れろれろれろ。」

ダナ「この段差が、色っぽいんです……♡
れろれろ……ちゅう、ちゅ、女性なので、
色々想像しちゃいます……♡」

ダナ「これが、アソコに引つかかるところ、とか……♡
この先っぽが……触れる感触とか……♡」

ダナ「ふふふ。

きわどいことばかり言っでごめんなさい。
ちゅむ、ちゅ、ちゅるる、ちゅ。
私も、発情してるみたいです……♡」

ダナ「れろれろれろ、んぷう、ちゅ、ちゅくうう。
ちゅ……んん、れろ、れろッ、んぷ、ちゅ。」

ダナ「ちゅううう、んん、ちゅッ。
ちゅ……んん、ずずッ、ちゅ。」

ダナ「れろ、れろ……んん、ちゅ、ちゅ、ちゅく、ちゅ。
れろ、んんん、ちゅむ、ちゅ……。」

ダナ「発情が、抑えきれないみたいですね……♡
血管が浮き出て……エッチです……♡
癒し屋には似合わない、ストレスの溜まった姿です。
こういうのをスッキリさせてあげるために……私はいるんです。」

ダナ「なので次は——」

(咥えフェラ開始)

■演技…指定箇所以外は咥えた状態で

ダナ「あむうううう、ずずッ、ちゅ、ちゅるッ、ちゅ。
お口の中で、もう一度スッキリさせてください……♡」

ダナ「ずずううう、ちゅぷ、ちゅつ、ちゅうう。
んぶぶうう、ちゆる、ちゅッ。
ンぶつ、ちゅ、ちゆる、ヂュッ。」

■演技…鼻呼吸

ダナ「ふう……ふう……。」

ダナ「んんううう、ちゆる、ちゅううッ。
ズズッ、ちゅ、ちゅ。
んむうう、ちゅ、ちゅう、ちゅぷ、ちゅ……。」

■演技…一旦口から離す

ダナ「どうですか？」

(啜えてないあいだで手でしごく)

◇SE…手コキ・中速

ダナ「溜まったストレスは、吐き出せそうですか？
イク時は遠慮しないで大丈夫ですからね。
私……どこでも、おつゆを受け入れられますから……♥」

(手コキ停止)

(フェラ再開)

■演技…口から離すここまで

ダナ「んむううう、ズズッ、ちゆる、ちゅつ。
ちゅく、ちゅつ、ちゆるるるッ、ちゅびゅ。
透明なおつゆの味がする……♥」

ダナ「ヂュヂュヂュ、んぶぶうう、ちゆる、ちゆる、ちゅううッ。
んん、ちゅぷ、ちゅ、ずずッ、ちゅ。」

ダナ「はあ……んうう、ちゆる、ちゅッ。
ずずううう、ヂュッ、ヂュッ、ちゅぷ、ちゅつ。」

(ダナ、感じてる顔を見て思わず微笑む)

ダナ「ふふっ……っ♡」

ダナ「ちゅぷ、ちゅううっ、ちゅッ、んんん、ズズッ。
ちゅくッ、ちゅううう、ちゅっ。」

■演技…鼻呼吸

ダナ「ふう……っ。」

ダナ「んんん、ちゅ、ちゅるッ、ちゅっ。
ズズッ、ちゅく、ちゅ、ちゅる、ちゅッ。
んんんううう、ちゅッ、ちゅッ。」

ダナ「あむううう、んん、ちゅ、チュッ。
チュッ、んん、ちゅる、ちゅっ……ずずううッ。」

(主人公「イキそう」)

ダナ「イク？いいですよ……っ♡
お口の中で♡」

ダナ「ちゅるるるっ、ちゅぷん、ちゅっ、ちゅッ！
チュッ！ チュッ！
ちゅううう、ちゅりゅ、ちゅっ、ちゅうううッ！」

ダナ「んんんううう……っ。
ちゅうう、チュッ、ちゅく、ちゅううッ。
んんん、ズズッ、ちゅ、ちゅううッ。」

ダナ「はあ……んんううう、ちゅる、ちゅッ。
出してください♡ずずッ！ちゅる………ッ！」

(口内射精)

◇SE…射精

ダナ「んぷ……っ。

んっ……！

んっ……んっ……！」

(啜えたままペニスをしごいて全部出させる)

◇SE…手コキ・高速

ダナ「全部、ですよ？

んんんう……んぷ♪

ン……ッ。」

■演技…鼻呼吸

ダナ「ふう……ふう……っ。」

ダナ「んんう……っ。

んぷ……んう……。」

(手コキ停止)

ダナ「全部、ですか？では——」

(ペニスから口を離す)

■演技…ペニスから口は離しても精液は溜めた状態

ダナ「ん……ん……。」

■演技…口を開けて溜まったものを見せてる

ダナ「見へくらはい……♥

あー……♥このしえーえきを……♥」

■演技…ごっくん

ダナ「ごくッ……ごく、ん、んう……。」

■演技…啞えたままここまで

ダナ「ふはあああ……♥

すべて平らげてしまいました……♥」

ダナ「どうですか？

かなりスッキリしたと思います。」

ダナ「ですが、まだまだおちんちは望んでるみたいですよ？
もっとスッキリしてから……おやすみしよう♥」

(主人公「つ、次は……」)

ダナ「ふふふ。ナニするかわかってるんでしょう？」

ダナ「次は……、

おまんこで……癒します♥」

●トラック5「最後は愛を込めて…私のナカへ」

●背景…和室（日中）

（トラック4の続き）

（フェラをした事後）

◆正面下

ダナ「では、さっそく……。」

◇SE…立ち上がる

◆正面

ダナ「ふふふ……♪」

（ダナ、パンツだけ脱衣）

◇SE…浴衣の衣擦れ（パンツを脱ぐためにかき分ける動作）

◇SE…パンツを脱ぐ

◇SE…パンツを脱ぐ際に足を布団につける音×2

ダナ「癒すどころか、疲れさせてしまうかもしれません。

ですが、お手々とお口をされた後では……、

当然、オトナの快感も欲しいのが男性ですよね……♡」

（ダナ、脱衣後に主人公に跨がって騎乗位の体勢）

◇SE…布団の上に足音数歩

◆正面近い

ダナ「この上向きのおちんちん……、

私の動きで、ご奉仕します……♡」

(ダナ、ペニスを掴む)

ダナ「わぁ……カチカチ……♥

んう……ん……。

うん。大丈夫そうですね……よし♥入れますよ？」

◇SE…挿入(単音)

ダナ「んっ……♥気持ちいいですか……？」

いっぱい……ハアハア感じてくださいね……♥

んんうう、っ……ん……ッ。

一気に、いきます……♥

◇SE…挿入(一気に)

ダナ「はぁぁぁぁぁ……♥」

(根元までペニス挿入)

ダナ「んくうう……っ。

アッ……んう……あっ、はぁ、はぁ……っ。

気持ちいいですね……♥

幸せがじわじわと広がってきます……♥

(ダナ、上体を倒して密着)

◇SE…上体を倒す

◆左極近

■演技…指定箇所以外は囁きでお願いします

ダナ「んう……この幸せ、もっと広げましょう……♥

いきますね……♥」

◇SE…ピストン・低速

ダナ「んくッ、ん、あつ。」

はあ……んん、んくッ、んん、うん。
ん……はあ……んん、んく、んつ。」

ダナ「んう、んん、あつ、気持ちいい……♥

ふううう、んん、んくッ、ん、ん……っ。
んん、んくっ……んっ、んんう……♥

ダナ「あん、んっ……んんっ。

おちんちん以外も……幸せにします♥」

（耳舐めを開始）

ダナ「れろれろッ、んんん、ちゆく、ちゆ。

んん、ちゅぷちゅ、んんん、ちゆ。

ん……れろれろ、んぷ、んん、ちゆ……ちゅううう、ちゆ。」

ダナ「はあ……んん、ちゆ、ちゆく、ちゆる。

あ、んん、おちんちんが、びくびくしてますね♥」

ダナ「んん、ちゆ、んん、ちゅっ、ちゆ。はあっ、ん、んくッ、んっ。

ちゅ……はあっ、あっ、ん……ッ♥遠慮しないで、感じちゃってくださいね？」

ダナ「んぷふうう、ちゆく、ちゆ。んん、ちゆる、チュッ、チュッ、んん、ちゆ。

どれだけ昂ぶっても……、私のどこに興奮しても……あなたの自由です♥」

ダナ「ちゅむううう、チュッ、ちゆる、ッ、ちゆ。あっ、んん、んくッ、ん……。

はっ、んん、あん、ん……ッ。れろ、んんう、ん……あ、あ……ッ。

ちゆるるる、ちゆ、んん、ちゅッ。あっ、ああ……ッ。」

◆右極近

ダナ「こっち……。

んん、ん、はあっ……あ、あん、ん……ッ。」

（耳舐め開始）

ダナ「れる、れるッ、んん、ちゅく、ちゅ。
れるれる、んんん、ちゅく、ちゅうううッ。」

ダナ「あん、んっ、ん……ちゅ、ん、ちゅ、ちゅ。
はあ……はあ、ん、んく、んんうう、ちゅ。
れる、れるッ、んん、ちゅ、ちゅむう、ちゅ。」

ダナ「んん、んっ、ちゅ……ちゅむう、ちゅ、ズズッ。
大丈夫、かな……？私の方が、気持ちよくなってるかも……。」

ダナ「んん、ちゅく、ちゅ……んん、ちゅ。ちゅる、ちゅ、んん、ちゅ、ん、ちゅ。」

ダナ「あん、んう、んッ……んん、んっ。
ちゅ、ちゅる、チュ……んん、ちゅ。
れる、れる……ッ、んん、チュッ。」

ダナ「あんっ、んっ、ちゅ。
あの……ふふふ。

私、お先に癒されちゃいそうです……っ。だから……ッ。」

◇SE…ピストン・中速

ダナ「まずは……っ、自尊心を癒すということで♥んん、はあっ、あっ、んっ。
長寿のエルフをイカせた、遅いおちんちん……っ♥」

ダナ「長生きすればするほどっ、ん、んッ、快感も、感覚も遠くなっていくの……♥
でもっ、んん、ん、あなたのおちんちんは立派で、
はあっ……あ、ああ……ッ、エルフもすぐにイッてしまうほど、魅力的です……っ♥」

ダナ「イキますね？あなたのおちんちんが、イカせるんですよ♥」

ダナ「んあああああっ♥あああっ、イクっ♥
んっ、んうううう……っ♥」

(ダナのみ絶頂)

(ピストン停止)

ダナ「あ……ッ！はああ……んくッ、んっ、あ……ッ♥
んんんッ、んんく、ん……んッ、あ、ああ……っ♥イッてしまいました……♥」

ダナ「すごい方……♥エルフをイカせるなんて……♥」

ダナ「ん……ん……♥

次は……動きますか？

体、起こしてください……♥」

◇SE…上体を起こす

◆正面近い

ダナ「寝かせて？」

(ダナを抱えたまま騎乗位↓対面座位↓正常位の体勢で移動)

◇SE…身じろぎ

(ダナを正常位の形で寝かす)

(ペニスは繋がったまま)

ダナ「ん……っ。このまま……ご自由に使ってください♥

あなたが射精するまで♥」

◇SE…ピストン・中速

ダナ「んあっ……♥

アッ、はあっ、ん、んっ……うん。さすが、ですね♥

腰の動き方が色っぽくて……、つい、意識してしまいます……♥」

ダナ「んんう、あっ、んん、はあっ、はあっ、ん、んく。

んう……ああああ、んん、んく、ん……ッ♥」

ダナ「んはあ……っ。

はっ、ああっ、ん、んく……♡
んくうう、ん、んうう、ん……ッ。」

ダナ「うんん、ッ、んん、アッ、んう♡
はあ……はあ……どうですか？」

ダナ「一度イッてしまったおまんこ……、
狭さもぬかるみも……格別だと思うのですが……♡」

ダナ「はあっ、ん、あ、ああ……っ♡
んくッ、んん、あん、んう、んうう……♡」

ダナ「ふううう、ん、んく、んう……♡
はあ……はあ……あ、ああ……ッ♡
もうすでにわかつてると思いますが……、私は、気持ちいいですよ……♡」

ダナ「んくッ、んん、んっ……♡
んあッ、あ、ああ……んんッ、んう♡」

ダナ「おまんこだけじゃありません……♡
心から頭のとっぺんまで、はあっ、んん、
たくさん、気持ちいいが広がってます♡」

ダナ「ん、んくッ、んっ♡んんッ、んんんっ、んッ、あんっ。
はあっ、あん、んくッ……んん……っ。」

ダナ「欲しがりな気持ちがつ、はあっ、ん、
自分で、足を広げて、おまんこ突きやすくしちゃうんです……♡」

ダナ「んん、はしたないって思いますか？これって、下品ですか？
でもっ、ふたりで気持ちいいなら、なにも問題ありません♡
お互いがそう思わなければ、下品じゃないんです♡」

ダナ「んんくっ……んん、はあっ、ん、んあっ。

ああっ、ですが、こんなに気持ちいいを届けられたら、
またしても、私だけが、イツてしまいます……♡」

ダナ「なので、どうか……っ。んんうう、ん、もつと、強く突いてください……っ♡

全体力を消耗して、残りのストレス、不満を、
私のナカへぶつけてください……っ！」

（主人公「で、でもそれじゃあ……！」）

ダナ「はい……っ。当然、そのまま出させていただきます……っ♡

中出し……好きですよね？」

ダナ「あなたのおつゆ、ください♡

んんん、んっ、最後の最後まで、癒したいのでっ♡どうぞ、そのまま♡」

◇SE…ピストン・高速

ダナ「ンうゝッ！アッ♡ ああッ、んくッ♡ あ、ああッ♡

はあっ、はんん、んく、んううッ♡」

ダナ「はあっ、はあッ♡あんん、んくッ、んっ♡あん、んっ、スッキリしてください♡
私のナカへッ、はあっ、あっ、アアッ♡」

ダナ「どうぞ、いらしてくださいっ♡んううううッ、ああッ、イクッ♡一緒に、どうぞ♡」

はあっ、はあッ、あああッ、い、イクッ♡

イキましようッ♡おつゆ出してくださいッ♡イクッ、んんうゝゝゝゝゝッ♡」

（ピストン停止）

（同時絶頂（中出し））

◇SE…射精

ダナ「あんうううう……ッ！くぎゅッ！ うッ……あ、ああ……っ！」

はああッ……はあああ……っ！

んぎゅッ……う、ううう……ッ。」

ダナ「奥へ……♡あ、ああ……♡

でも、まだ……出せます……♡腰……動かしてみて？」

◇SE…強めのピストン一発

ダナ「ンンン……っ！はああ……はああ……っ。もう一度……♡」

◇SE…強めのピストン一発

ダナ「ああああ……ッ！ああああッ、う、ううう……♡

中出して……気持ちいい、ですね……♡」

ダナ「はああ……はああ……ッ♡

んんんうう……んく、んっ……ふはああ……あ、ああ……。」

◆正面近い

ダナ「いかがでしたか……？」

私のナカで……最後まで気持ちよくなっていただけてなによりです……♡」

ダナ「でも、中出しを憂う必要はありません♡最初に言いましたよ？

私たち……いまだけは恋人です。子宮に子種を出しても、なにも問題ないんです。それよりも……。」

◆左極近

ダナ「あなたが癒されたかどうかの方が大事……♡

どうでしたか？おちんちは、スッキリしましたか？」

（主人公「ほんとに、大満足」

ダナ「ふふ。よかった……♡

今日は、このまま寝てしましましょうか……♡」

●トラック6「おやすみなさい」

●背景…和室（日中）

（トラック5の続き）

（ペニスの繋がりの有無は濁すものの事後）

◆左極近

ダナ「はぁ……♥気持ちよかったですね……♥

このまま、ゆっくりと休みましょう……♥♥

◇SE…指を鳴らす

◇SE…風で木々が揺れる音（たまに挟んでください）

ダナ「興奮は消え、ストレスもなくなったと思います。

あとは静かな自然に包まれて……、

ゆっくりと目を瞑っておやすみなさい……♥♥

◆右極近

ダナ「目を閉じて？……そのまま、なんにも意識しないでゆっくりと、
あるがままを受け入れて……そうですね……♥♥

■演技…寝息を立てる

ダナ「すう……すう……。私も……このまま、眠ります……。」

ダナ「すう……ふう……。ふう……。」

すう……。ふう……。」

ダナ「今日は、寝てしまいましたよう……♥おやすみなさい……♥
またいつか、ここを尋ねた時には、
もう一度……私の恋人となって……、
癒しの施術を受けてくださいね……♥♥

ダナ「では……夢の世界へ。

いってらっしゃいませ……♡♡
「

ダナ「すう…………ふう…………。」

すう…………ふう…………。」

すう…………ふう…………。」

んう…………ん…………。」

ダナ「すう…………ふう…………。」

すう…………ん…………。」

すう…………。」

すう…………。」

■演技…力なく

ダナ「すう…………。」

すう…………。」